

B型肝炎感染者 進まぬ定期検査

国内最大の感染症とも呼ばれるB型肝炎ウイルス。感染しているが自覚症状のない「無症候性キャリアー」の人でも慢性肝炎や肝がんに進行する恐れがある。国は一定の条件を満たしたキャリアーに定期検査費用を助成しているが、受診率は6割と低く、受診率向上が課題となっている。

無症状でも肝がんの恐れ

B型肝炎ウイルスの拡大は集団予防接種での注射器の使い回しが原因として、感染を防止しなかった国の責任を問う訴訟が全国で起こされた。結果、国は2011年に成立した救済法に基づき、集団予防接種で感染した人とその人から母子感染した人に、病態に応じて最大3600万円の給付金を支払う。

昨年度受診率6割どまり

給付金の支払い対象となるには訴訟に参加し、和解をする必要がある。キャリアーは給付金50万円のほかに、定期検査費用を受給することができる。「受給者証」を病院で提示すると窓口負担はゼロになり、検査手当として1回1万5千円(年2回まで)が支給される。



B型肝炎訴訟で和解した原告が受けとる「受給者証」を手にする女性。定期検査で提示すれば、窓口負担はゼロになる(画像を一部加工しています)

がん早期発見へCT検査必要

札幌の肝臓専門医・山本医師に聞く



山本浩医師

無症候性キャリアーの9割はウイルス量が少ない「非活動性キャリアー」となるが、残りの1割は慢性肝炎を発症し、そのうち年間1%程度の人が肝がんに進行する。非活動性キャリアーでもまれに発がんすることがあるため、定期的な検査が欠かせない。

10年前に和解した札幌市厚別区の女性(71)は受給者証を手に入れた。定期検査に通う。症状の進行はないが「ささいな心配事も医師に相談でき、安心できる」と歓迎する。和解前は2、3年に一度しか行かなかったといい、「定期検査をフルで受けると1回2万円くらいかかり、足が遠のいていた」と話す。

費用だけでなく、年2〜4回必要という定期検査の回数自体も負担となっている。厚労省によると、これまでに和解が済んだB型肝炎のキャリアー約4万1400人のうち、昨年度に定期検査を受けた人は6割にとどまった。北海道訴訟原告団の担当者は「キャリアーは若い世代も多く、仕事や家庭のことで忙しい。症状がなければ、受診が後回しになりやすい」と話す。

B型肝炎にくわしい、札幌市西区のイムス消化器札幌中央病院の肝臓専門医、山本浩医師にキャリアーの定期検査の重要性を聞いた。

血液検査では「ALT」「AST」など肝機能の数値も見ますが、注意すべきは、肝がんが始まっていると、肝機能の数値に変化がないケースがあるということです。肝がんのリスクと相關しているのは血液中のB型肝炎ウイルス量です。血液検査は健康診断だけでなく、専門医のもとで受ける必要があります。

B型肝炎は他の肝炎と比べて特に進行が早い。過去には40代のキャリアーの男性で、「おなかが張る」と病院を受診すると、がんが破裂するほどの巨大な腫瘍が見つかった例もあります。定期検査は5年間受けていませんでした。

参加するには「生年月日が1991年7月2日から88年1月27日まで」「満7歳までに集団予防接種を受けた」「他の感染原因によって感染した可能性がない」など条件を満たす必要がある。

北海道弁護士事務局長の奥泉洋弁護士(札幌)は、「相談に応じてもらっても、証拠資料が見つからないなどの理由で提訴に至らないうケースは年々増えてきた」と話している。年数の経過とともに証明に必要なカルテなどが廃棄されるためだ。「国には原告とならないキャリアーも含めた検査費用助成の助成など、救済策をさらに広げてほしい」と訴えている。

若年で発症し、残念ながら「1」の施しようがない「状態」に進んでしまった方を何人見えました。

どこかで肝炎になり、肝臓に変化していたはずで、定期的に検査をしていけば、おそらく早期に気づくことのできた。中には肝硬変の兆候がくほぼキャリアーの状態ががんする方もいますが、ウイルス量は変化していたと思えます。

B型肝炎は飲み薬でウイルスの増殖を抑え、肝硬変やがんへの進行を予防することができるといわれています。キャリアーの方は専門医の定期検査受診を、自分がキャリアーかどうか分からない場合は、ぜひ一度ウイルス検査を受けてもらいたいです。